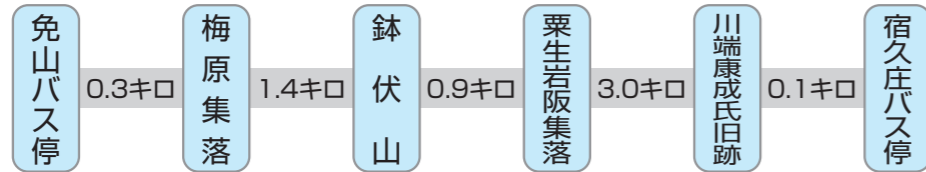


茨木自然歩道を歩く 6

茨木には自然歩道として、竜王山、^{ものふ}武士、^{やまなみ}山脈、^{はちぶせ}鉢伏、北山、キリシタンの6コースと東海自然歩道を組み合わせたコースなどがあります。

まなびどり探検隊はこれらの歩道を実際に歩いて、四季折々の自然をシリーズでお届けしています。今回は夏に取材した鉢伏自然歩道を紹介します。

家族で自然を楽しめる鉢伏自然歩道



今回のコースは市のコース案内とは反対に、免山バス停から梅原集落、鉢伏山、粟生岩阪集落を通り、宿久庄バス停までの約5.7kmを歩くことにしました。加えて、コース案内外の紫金山古墳とその周辺も訪れました。

阪急茨木市駅午前8時55分発の忍頂寺行阪急バスに乗り、午前9時40分に免山バス停に到着しました。

免山バス停～梅原集落～鉢伏山

免山バス停で下車し、佐保川を後にして道標の案内に従って歩いていくと、地藏仏三体が歓迎してくれる。ササが茂る道を踏みしめ、“ヤブカンゾウ”の花や田園風景に心を癒されながら約300m歩いていくと、目の前に梅原集落が見えてくる。

のどかな梅原集落を後に、田園風景の中を山手へと進み、左折してヒノキの林道を少し行くと、小さな池と平地が目の前に開ける。このあたりからウグイスの音が聞こえ始め、その鳴き声にしばし聞き惚れる。ヒノキ林と大きな樹木のなだらかな山道を、体にマイナスイオンを浴びながら30～40分歩き、少し急な山道を登ると、標高296mの鉢伏山山頂に着く。茨木市南西部の眺望が開け、ゴルフ場なども見渡せる。山頂には昭和6年建立の登頂記念碑がある。記帳ノートがあったので記念に記帳して下山する。



免山入り口近くにある地藏仏

鉢伏山～粟生岩阪集落



鉢伏山山頂

鉢伏山から雑木林の山道を散策しながら下っていくと、すぐに粟生岩阪集落の入り口に到着。下る途中で地元の人に出会い歓談する。元気そうな人で、鉢伏山記念碑の由来などを語ってくれた。人と人のふれあいに心が和むひとときだった。



粟生岩阪集落



粟生岩阪集落～川端康成氏旧跡～宿久庄バス停

集落を少し行くと、稲荷神社にある六体の智恵地藏が迎えてくれる。集落を横切り小さな川に沿って二つの堤防を過ぎ、しばらく行くと峠に着く。そこで昼食をとる。十数人の若者が、ログハウス建設の準備を楽しそうにしていた。中高生のための夏休み体験学習の拠点らしい。昼食後、ゆるやかな下りを関西大倉学園を左に見て進むと、日本人初のノーベル文学賞を受賞した川端康成が少年時代を過ごした旧跡に着く。近くの八坂神社に足をのばし、康成に思いをはせながら宿久庄バス停に到着した。

宿久庄バス停～紫金山古墳～新屋古墳群～福井宮の前バス停 (コース外)

慧光院、紫金山古墳、新屋古墳群を見て回る。紫金山古墳は、古墳時代前期(約1600年前)の東西方向の前方後円墳(前方後方墳の可能性もある)で、後円部の墳頂から長大な竪穴式石室が発見され、棺の中には中国の「新」の時代の鏡が納められていた。新屋古墳群は新屋坐天照御魂神社の裏山一帯に存在する古墳群で、6世紀後半から7世紀初頭にかけての円墳が30基余り群集している。

新屋坐天照御魂神社に参拝し、バスで帰路に着いた。



新屋坐天照御魂神社

鉢伏自然歩道は行程も短く、なだらかな自然の山道が多いので、家族で山歩きの楽しさを味わうことができます。

まなびどり探検隊は、茨木市の自然歩道の6コースを歩きましたが、各コースにはそれぞれの趣があり、楽しみ方もさまざまです。健康増進やストレス解消の手助けにもなるのではないのでしょうか。皆さんも一度歩いてみてはいかがでしょうか。

担当:阿曾 金原 西村 野間 宮原 絵:金原